

児童・生徒の現状・課題

- ・低学年は学習の意欲は高く、中学年・高学年は二極化している。
- ・興味のあることや楽しそうだと感じたことには、意欲的に取り組むが、難しそうだと感じると消極的になってしまったり、できないことがあると諦めてしまったりする。
- ・与えられた課題に対して一生懸命に取り組もうとするが、自分の理解度や進捗状況を把握したり、自らの課題に対してどのような手だてで解決したらよいのかを考えたりするのが難しい児童が多い。

学び続ける力を育むための重点目標

子供たち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
① 自分からすすんで計画をたてて、学習している。	82.5	85.0	
② 授業のはじめにはこれまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	82.5	85.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
① 授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	66.7	70.0	
② 授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	95.8	96.0	

具体的な手だて①

単元の初めには、学習内容や学習計画を示し、児童自身に見通しをもたせる。

具体的な手だて②

毎時間の授業の中では、「めあて」を明確に提示し、振り返りの時間を設ける。児童自らが、理解度や進捗状況を確認したり、それらを教員が把握して授業作りに役立てたりできるようにする。

具体的な手だて③

各単元の学習の中で、活動形態(グループや個別など)や学習の場、課題、学習内容や方法を目的に沿って、児童が自ら選択できる場面を設けていく。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・教員全体の Classroom や研究の Classroom を活用し、日々の実践や意見を共有し、相談を行いやすい環境を整える。
- ・管理職の授業観察や研究授業の指導案を他教員にも配布し、授業を互いに見合う機会を増やす。
- ・年間10回の OJT や校内研究の中で、実践報告をしたり授業について相談し合えたりする時間を設け、情報共有をしていく。

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組む力が弱い。それは、授業において、受け身的な場面が多いこと。また、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題がある。そこで、日常の授業において児童が自身で課題を選択したり、学習方法を自己決定したりできる場面を設定する。それに伴い、必要な手だてをしっかりと準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)